

TOKYO FUTURE 東京未来 ビジョン 懇談会通信

【出席者】※敬称略、五十音順

第 6 回
2017.11.27
東京都

小池百合子(座長)
青木亮輔 伊勢谷友介
菊地裕介 くわばたりえ
高校生内閣 宿輪理紗
高橋みなみ 西田圭志
バックン メイミ
モハメド・オマル・アブディン 発行:政策企画局計画部
山科ティナ

この懇談会は、都における政策の推進や政策形成等に新たな発想を取り入れるため、各界の第一線で活躍している新進気鋭の若手の方々と意見交換を行うことを目的に設置されました。

※ 画像をクリックすると動画が見られます

青木亮輔氏のプレゼンテーション

「2050年 世界に誇る自然共生都市『東京』」を目指します。2050年の東京には、樹齢100年の森林が広がっています。そこに、美術館や映画館へ行くように、気が向いた時に行けるようにするためには、森林作業従事者を増やすこと、受入体制を整えることが非常に大事。また、多摩川は日本一の清流になっていることでしょう。すばらしい自然と都民が豊かに暮らし、世界にも誇れる自然共生都市にしたいと考えます。



西田圭志氏のプレゼンテーション

50年後もおいしい魚を食べるために、水産物の持続可能性に配慮した、東京の未来の漁業を提案します。魚の資源状態や、資源管理の取組を科学的に評価しオープンにすること、また、流通経路を遡るトレーサビリティの向上により、魅力的な未利用魚たちがきちんと評価されることで、消費者は持続可能で、おいしい魚を選択できます。「たくさん獲る」漁業から「需要に合った」漁業へと転換し、理想の漁業を実現します。



子供たちを連れて行ける“森もどき”のような場所が、自分の家から30分くらいで行ける所にあるといい。
(くわばた氏)

東京イコール自然というイメージを定着させたい。そのため、区域で分けて、小さい公園、アミューズメントパークみたいな森をつくれたら。
(高校生内閣)

出席者の 発言

ファッションに絡めると、現代の技術で、すぐに乾くような生地のウェアができれば、気軽に川に入れるようになる。新しい楽しみ方が増えるかも。
(山科氏)

奥多摩や檜原でも、宿泊施設の充実だったり、滞在期間をもっと長くさせるような仕組みがあればいい。
(宿輪氏)

アウト プット

第6回のビジョン懇談会では、「東京未来ビジョン懇談会」アウトプットの構成イメージをご提案させていただきました。

メインパートにつきましては、メンバー一人ひとりの「持ち寄り型」により作成していきます。描き方につきましては、寄稿やインタビュー、また文章に限らず、漫画での表現というものも考えております。

(詳細は[当日配布資料](#)※をご覧ください)。※クリックで資料ページへ